

第13回あきる野市行政改革推進市民会議について

・日 時	平成23年7月5日(火)午後1時30分から午後4時35分まで
・場 所	市役所 5階 505会議室
・出席者	(委員)：〔委員長〕近藤智孝〔副委員長〕岡野哲史、岡部信夫、木原克二、俵武司、南正夫、鶴田和男、中嶋博幸、荻原出、坂本栄司、小泉恵美、吉田栄久夫 (関係者)：宮田財政課長 (事務局)：尾崎企画政策部長、田中企画政策課長、山田主査、水葉
・報告事項	①取組2「市民との協働プロジェクトの推進」について ②取組32「保育園の民営化」について ③取組46「プール施設のあり方」について ④取組57「定員管理の適正化」について
・議 題	取組41「五日市地域交流センターの有効利用」について
・配付資料	①【資料1】取組2「市民との協働プロジェクトの推進」 ②【資料2】取組32「保育園の民営化」 ③【資料3】取組46「プール施設のあり方」 ④【資料4】取組57「定員管理の適正化」 ⑤【資料5】取組41「五日市地域交流センターの有効利用」 ⑥五日市出張所及び五日市地域交流センター平面図

議 事(要旨)

委員 長	暑いさなかであるが、充実した会議ができるようご協力をお願いして、(挨拶) 挨拶に代える。
事 務 局	職員の不祥事について、報告とお詫びをした。
報告事項	①取組2「市民との協働プロジェクトの推進」について ②取組32「保育園の民営化」について ③取組46「プール施設のあり方」について ④取組57「定員管理の適正化」について
事 務 局	報告事項4件について、資料1から資料4に沿って説明をした。
委員 長	今回の報告の中では、市民会議での提言の内容に触れている部分とそうでない部分があった。協働については進んでいると考えられるが、市政情報の活用や収入の増加などは、今日の資料には出ていないので、適宜報告できるようにしてほしい。それでは、この報告事項についての委員の皆様のご意見とご質問をお願いします。
委 員	報告書の内容は理解できるが、文章が書いてあるだけで目標数値がないため、目標に近づいているかどうかわからない。報告書を見ていると市が取り組んでいるような気になってしまうが、達成できたのかわからないので、目標数値を出せるものは、出してほしい。
委員 長	具体的には、取組の中でどの取組が数値で目標設定できると考えるか。

委 員 :	すべてできると思う。「市民との協働プロジェクトの推進」についても、森林サポートレンジャーへの職員の参加人数を増やすことが目的ではなく、職員を集めて何をしたいかということが目的であると思う。その具体的な取組によって、あきる野市へ観光などに訪れる人数や、あきる野市に興味を持ってもらう人数などの目標設定をすることができる。このことにより、報告された内容が、目標に近づいているかどうか判断しやすくなる。目標数値が出ていないので、報告されても改革されたかもわからないので、文章のごまかしで終わってしまう。地域産業活性化応援隊は、何を達成できて活性化できたか判断するのか。市が言う活性化とは何なのか。数字がはっきりすれば分かってくるが、人によって活性化のイメージが異なるので、このような報告があっても、ただ書かれているだけになってしまう。
委 員 長 :	それぞれの取組に達成値は、定められているのか。また、参加した職員の感触は、どうなのか。
事 務 局 :	私は、地域コミュニティ応援隊に参加しており、防災・安心地域委員会の会議などに出席し、行政として持ちえる知識や市の状況を報告することで、会議の円滑化を図っている。各地域における避難訓練への取組に対して、地域コミュニティ応援隊が出向き、会議などで議論を深めている。当初は、市内の7つの地域の防災・安心地域委員会に5人から10人くらいの職員で組織する予定でいた。活動を通じて、地域の課題など住民の生の声を聞くことができ、一定の成果が出ている。市民からは、「一緒に市の職員と会議などができて、ありがたい」といった声も聞かれる。また、森林サポートレンジャーにも参加している。
委 員 長 :	職員が現場で学ぶことができ、そのことが市の内部に少しずつ浸透してきているということである。その中で、到達点があるならば、目標設定をすることを今後の課題にしてほしい。地域産業活性化については、どうなのか。
事 務 局 :	確かに、目的の明確化がなされていないのが現状である。地域産業活性化応援隊は、地域や住民とのコンセンサスも把握しないといけない。各地域において、消費者が減り活性化策を模索する中、売り上げをどう伸ばしていくかなどの目標設定をできていないのが現状であり、その話し合いをしている段階である。
委 員 長 :	地域防災リーダーについては、どうなのか。
委 員 :	地域防災リーダーについては、町内会・自治会が中心となる活動であるので説明させていただく。防災リーダーの育成のため、各種研修会を実施していくことになっており、日程は資料のとおりである。防災に対する素人を集めて防災リーダーの育成をするのではなく、町内会・自治会の役員経験者や消防団のOBなどに広く声を掛け、長い期間活動できる人を育成しようと考えている。
委 員 長 :	いい取組であり、職員の努力がなければいけないわけで、それぞれの取組をさらに推進しないといけない。各取組の到達点がないということについて、今後、検討してほしい。

委 員 :	報告資料の内容が見えにくい。資料3については、23年度の計画がどうなっているのか書いていないので、どうしていくのかが見えない。ただ、過去はこうしたという報告では意味がない。市民プールの利用状況の22年度実績と23年度の目標について記述がないので、23年度の成果が見えてこない。「定員管理の適正化」については、数字が出ているが、給与構造改革についての削減額がいくらで、23年度はこれだけの削減目標を設定しているということであれば、この会議の内容が活かされているということになる。これから先どうなるかを見たい。活性化委員会なども、秋川駅北口を今年はどうするという目標がないと、どういう活性化が図られるか見えない。続いて、東秋留保育園の新園舎の建設については、仮設で園舎を建てて、新園舎を建てるのか。
事 務 局 :	園庭の関係もあるので、空いている土地に仮設をして、新園舎を建てる。
委 員 :	そうであれば、正確に報告してほしい。その仮設経費が無駄になると思う。今年どうなるのかを示さないと、この会議は形式的にやっているだけということになる。
委 員 長 :	市政情報の透明化と活用に関する提言があったように思う。結局は、報告事項の内容が目標のない結果の羅列にすぎないとの指摘である。民間では、達成目標を示しており、達成目標は気になるところである。行政は、まずその点を正してほしい。他に、質問をお願いしたい。
委 員 :	改革をしていく上で、経費の削減効果があることをしていけないといけなないと考える。プールの運営も努力していると思うが、裕福でない市であるのに3つも温水プールがある。日の出町や福生市にはなく、羽村市には1つというのが現状である。年々、プール人口は減ってきている。聞くところによると、9000万円の費用に対して、使用料は900万円しか入ってきていないとのことである。市が財政的に大変であるので、いきいきセンターは、思い切って廃止しないといけな。
委 員 :	報告書の中で、市民プールに指定管理者制度を導入するスケジュールが書かれているが、指定管理をしてどれくらいの費用の改善になるのか。人件費の増減や委託料の金額が示されていない。また、以前、五日市ファインプラザの指定管理者の公募の際に、期間が短く、新規参入を阻止しているのではないかとも思った。申請を受け付けるに当たって、様々な準備があるので、公募の期間は十分に確保してほしい。また、プールの利用者が減っているのは事実である。
委 員 長 :	新規参入阻止の話があったので、そのようなことのないような配慮をお願いする。また、いきいきセンターがなぜ存続になったのか。
委 員 :	いきいきセンターを廃止することで、市民サービスが低下することになるが、経費を削減することができる。それを提言していくのがこの市民会議であると思う。廃止にするのは簡単であるが、そのためには、市ではここまで改革したがそれでも削減しなければならず、いきいきセンターは廃止せざるを得ないということを示めさないと、市民は理解してくれない。現状で、私は、市がよくやっているとは思えない。市営住宅のことなどに

	ついて議論してきたが、この市民会議で議論して変わったことがないような気がする。
委員長 :	それはひとつの見方かもしれない。
委員 :	今までにプールの議論の場がなかったので意見として述べるが、民間のサマーランドをなぜ活用しないのか。運営費の一部を助成してもよかったと思う。温水プールの運営については、思い切って改革しないといけないと思う。財政が豊かならばいいと思うが、借金を残しながらやっていくことが理解できない。期待とずれているところがある。
委員長 :	民間の施設を利用しながら経費の削減をすることは、提言に値することなので、行政も検討する必要がある。
委員 :	市民会議での議論は、本当に意見として取り入れられるのか。市には、あらかじめの筋書きがあって、それにあった意見のみ取り入れられているような気がする。そのようなことがないように願います。
事務局 :	指定管理のスケジュール(案)をお示ししたが、市民会議の意見を担当課に伝える。温水プールについては、利用者からの存続の意向が示されており、3つの温水プール施設に多くの経費が掛かっていることは承知しているが、その中で運営方法等を十分に検討し、経費が削減できればと考えている。
委員 :	プールを存続することは、決まっているのか。
委員長 :	決定はされたようである。今後の余地についてはどうか。
事務局 :	いきいきセンターは、冬季閉鎖や時間短縮などを効率的に図っており、この取組を進める中で対応している。
委員 :	市民会議で提言したことで、改革されたことがないように思う。
委員 :	いきいきセンターは、時間短縮や一部休業などに取り組んでいるが、近くにあるサマーランドに行けばいいと思う。温水プールの運営には、経費が掛かる。市民会議の存在意義が曖昧である。
委員 :	市は、市民をないがしろにできないので、やめると言い出せないのだと思う。
委員 :	それでは、市民会議を作った経緯と異なってしまうように思う。
委員長 :	前回の市民会議の後に、市長と副市長にお会いして、本気でやってもらわないと困るという話しをした。皆様の意見に対して、市は確実に進めているというのが、市の見解である。
委員 :	いきいきセンターの件は、既得権、利用者との関係ですぐにはできないとの話があった。再度、問題提起するのはいいが、やるのは行政であるので、提言したが結果として受け入れられなかったという認識でいる。
委員 :	全体を見ても、改善されていない。また魅力的な成果もない。
委員長 :	以前に議会改革についてお願いをしてきたが、市長が報酬の削減の提案を議会に提出することについては、特別職報酬等審議会への回答はなかった。先日、議会事務局長と直接話しをしてきた中では、答申の内容は理解できないものではないと言っていた。定数管理については、「どのような方

	向に行くのでしょうか」と質問をしたところ、回答の中で私の個人的な感触としては、報酬を削減することは難しそうであるが、一方で、定数の削減はすぐではないが削減する可能性はあるのではないかという感じを受けた。
委 員 :	若い議員がいるので報酬を下げなくてもいいと思うが、定数については、優秀な議員がいるのであれば人数を減らしてもいいと思う。
委 員 長 :	今までの市民会議で議論されたことや提言は、ストレートに政策実現に向かっていないが、職員の間で議論されていて、意識改革に繋がっていると思う。
委 員 :	議論された結果がホームページに公開されているが、22年度決算の数字に対して、23年度こうなっているというような形で公開してほしい。私は、少なくとも市民会議の議論は、無駄でなかったと思っている。
委 員 長 :	市に対して、第2次行政改革推進プランの中で何ができて、何ができなかったか、なぜできなかったのかを聞くことはできる。それを以って、市民会議の役割が終わると考える。
委 員 :	協働について、市が進めようとしているが、健康課の事業に市民のボランティアなどが参加している。事業がうまくいく場合と、うまくいかない場合がある。私の経験から、事業を成功させるためには、市のほうでの準備が必要である。市民会議も協働にしてもいいと思う。例えば、体育施設専門のワーキンググループを作るなど、協働により提案をする。最初は事務局も大変であるが、組織が立ち上がれば事務局の手がかからなくなる。
委 員 :	私の所属している団体も、市が主導で立ち上がった組織であり、姉妹都市への派遣を協働でやっている。市が組織のベースを作ったので、大変やりやすく事業を実施している。市の関係職員も、休みの日も協力いただいたり、一般の市民が見えないところで職員に支えられている。そのことについては、市民サイドからも市を評価していいと思う。
委 員 長 :	職員の意識改革は手を打っているようであるが、いかがか。
事 務 局 :	少ない職員数でコストパフォーマンスを上げるということで、一人ひとりの意識改革が進んでいる。業務量が増えている中、少なくなった職員数で業務に対応している。その反面、非常勤は増えているが、職員の足りないところを補っている。少なくとも、職員一人ひとりが努力しているのは間違いない。ただ、不祥事が起きてしまったことは、痛手であったが、これからも職員一丸となって頑張っていく考えである。
委 員 長 :	幹部候補生の任用については、どのような取組があるのか。
事 務 局 :	任用制度について試験制度を導入し、やる気や能力がある人を昇任している。
委 員 :	能力の判断は、何で判断するのか。
事 務 局 :	人事考課と筆記と面接、研修の成果などを総合的に判断して選考している。また、別に降格を希望することもできる制度を導入している。かつてのように、役所に長くいれば昇任していくということではなくなった。
委 員 :	昇任試験を受ける人はいるのか。

事務局 :	毎年、いる。
委員 :	昇任試験を実施することは、上司の怠慢であると個人的には思う。試験ではなく、本来、管理職が職員の資質を判断することができると思う。
委員 :	しかしながら、制度の導入で、今までの年功序列であった点が変わったのはいいと思う。
委員 :	パートの時給は一律というのは変わらないのか。一律では、がんばっている人が損する。部署によって、業務内容も異なり、時給を変えることはできないのか。また、パートの人事考課をすることは、難しいのか。
委員長 :	新しい指摘である。回答をお願いします。
事務局 :	職種により異なるが、一般事務の場合の時給単価は、最低賃金である時給 8 2 1 円で一律である。
委員 :	経験とスキルにあわせて、時給単価が上がっていかないのは法律で規制されて決まっているのか。それとも仕組みでできないのか。
事務局 :	時給単価を上げないのは、雇用期間との関係があるのではないのか。
委員長 :	このことについて、次回報告してほしい。
委員 :	やる気がない人はやめさせればいいのではないかと思う。
委員 :	辞めさせるのではなく、上司が指導・育成すればいいと考える。
委員 :	後任希望の制度は驚いた。病気などの理由はわかるが、後任の判断をするのも上司の仕事でないかと思う。
委員長 :	他に、市の将来への意見など、若い世代の委員の意見は何かあるか。
委員 :	これからの子どもの世代のことを考えて、市をサービス業と捉えると、支出を減らさないといけない。サービスを維持していくということであれば、人件費に手に入れないといけないと思う。特別職、職員の今後の給与については削減する予定はあるのか。また、地域手当、期末勤勉手当などは何か。
委員長 :	答えられる範囲で、回答してほしい。
事務局 :	職員の給与は東京都人事委員会勧告に基づいて基本給を決めている。期末勤勉手当はボーナスのことである。ちなみに、国の基準に対して、市の基本給与額を示すラスパイレス指数について、あきる野市は、多摩 2 6 市中 2 6 番目の状況にあり低い水準であり、これは早い段階で地域手当の削減に取り組んだ成果であると思う。
委員 :	他の市を気にするのではなく、あきる野市でベストを尽くした結果として 2 6 番目であればいいと思う。あきる野市は、そういう危機的状況であると思う。東京都人事委員会勧告には、従わなくてはいけないのか。
委員 :	従わないといけないものではない。他に低いところはあるか。県レベルでは、現実的にはある。
委員長 :	職員組合もあるので、難しい問題ではあると認識している。市民会議の提言に対して、市の取組が思うようにいかないことについて、一言ずつ意見を言ってほしい

委員	： <p>いろいろな会議に出ていて、特に気になっていたことをここで発言してきた。職員の意識の中には芽を生やしてきていると思うが、われわれもやり方を工夫する必要があると思う。なんとなくやむやになるのではなく、他の委員会とも連携や、議員との話し合いなどをしていかないと改革は進まないと思う。例えば、議会改革については、給料を下げるよりも、定数を減らすことである。議員からは、2つ議席を減らせば会派が減るなどの意見が出たり、つい最近減らしたばかりなのでいいのではないかということになってしまいがちである。また、協働について、私も地域活性化戦略委員会の委員をして携わっていて、本当に市は一生懸命していると思う。地域が一生懸命にやってくれないなどの課題があるが、職員が一生懸命している。その当たりを市長が説明してもらえるといいと思う。</p>
委員	： <p>目に見えて改革し変わったものが、もう少しあってほしい。市民会議がうらまれてもいいので、もう少し改革してほしかった。</p>
委員長	： <p>第2次行政改革推進プランは、24年までの計画期間なので、これからも24年度に向けて改革でされていくものもあると思う。</p>
委員	： <p>改革のやり方、報告の方法も考えていかないといけないと思う。議員との話し合いの結果もよくなかったようなので、話の持っていくかたを考えないといけない。</p>
委員	： <p>町内会・自治会は、いろいろな協議会、医療、消防団、お祭りなど、年中たくさんの行事がある。私は、市民会議への参加が今日で3回目であるが、この会議でのすばらしい意見が市に通じていかないのが、むなしく感じる。行政からも意見を聞ける機会を出してもいいのではないか。</p>
委員長	： <p>結局は、町内会・自治会の発展につながっていかない。個人的な見解ではあるが、町内会・自治会のほうでも、町内会・自治会のあり方について、のろしを上げることも必要ではないかと思う。</p>
委員	： <p>できるだけ事業の見える化をしないといけない。あきる野市の財政が悪くなってきている中、借金を減らすのにどうしたらいいのか。今年はこうなったというまとめ方をしていないといけない。全部が全部できなくてもいいと思う。</p>
委員	： <p>市民の意識が低いのではないかと思う。選挙でも、顔見知りというだけで投票する。自治会も入りたくないなど、みんなで何かをやっていくという仕組みが分かっていないような気がする。また、市の本気度が見えてこない。市民会議の資料を作ることが仕事のようにになっている。</p>
委員	： <p>停滞した話ばかりであるが、私は借金を0にしてほしい。秋川高校の利用がどうなっているかわからないが、都の土地を調整区域のうちに買って、収入が入るような利用方法を計画していくことがいい。返せる借金であれば、前向きに借金してもいいと思う。</p>
委員	： <p>体育協会の代表として参加しているが、体育協会は9000人くらい会員がいる。市内での最大の法人であると思う。体育施設を利用している最大のユーザーである。会議の中では、決まっていることは進んでいくが、体育協会の発言で改革されたという感じは受けない。個人的な感想として、</p>

	市は、スポーツと音楽のまちとしてやってきて公共施設が充実しているので、あきる野に住みたい人が多く、そのような人達の代表でもありたい。いかに効率よくやっていくかについて、体育施設の利用につなげるような理想を持って参加してきた。今後、一緒に考えていきたい。
委員長 :	そのためには、金銭的な余力が必要であるということである。市の設備投資への体力が必要である。最終的には、市民のやる気であり、やる気があればできる。常にギブアンドテイクでないといけないというのが、個人的な感想である。
委員 :	その時その時のことを見ていて、視野が狭いと思う。一步止まってみて、子どもが大きくなったときや第二の人生を楽しめる未来図が描けているのか疑問である。市民会議に集まっている人は、そのようなことを考えていると思うが、市民もいろんなことを考えてもらえるといいと思う。市民が考えるような機会を作ったり、子どもへの教育をしていくこともいいと思う。意見が反映されていないとの意見があったが、副市長もこの会議に出席し、委員の熱意を感じてほしい。この場の雰囲気を感じてほしいので、もう一度この会議を見てもらうことも必要であると思う。
委員 :	意見の反映について、残念であるが、市民会議の中でも、目標設定をして、24年度までの借金を減らす提言をするなど、明確な設定も必要であると思う。
議題 「五日市地域交流センターの有効利用」について	
事務局 :	資料5について、五日市出張所及び五日市地域交流センターの平面図を用いながら説明をした。
委員長 :	市としても、有効利用について頭を痛めていると聞いている。有効利用について、一定の方向付けができるありがたいと思う。できるかできないか別として、市民会議でチャレンジしたい。ここで委員からの提案があるので、説明をお願いします。
委員 :	個人的にまとめたが、配付された資料で足りないので、追加資料として配らせてもらう。(委員から提出のあった資料について、説明があった。)
委員長 :	市からの説明と委員からの提案がなされたが、ご意見ご質問はあるか。五日市地域交流センターについての有効利用については、市長、副市長、議員も頭を痛めているようである。
委員 :	武蔵五日市駅前にある市の運営している駐車場の問題は怎么样了のか。
事務局 :	市有地は、将来的に、観光、物販、情報発信の複合的な施設にするという位置付けである。地域のアンケートからもそのような意見もあり、また、駐車場が必要であるという意見も多く、駐車場の機能を残している。
委員 :	そこにファーマーズセンターがあってもいいと思うが、立地的には、五日市ファーマーズセンターから近すぎて、供給する側も生産が間に合わないようである。五日市広場で実施している朝市でも、生産が間に合わないとの意見があった。
委員 :	確かに、生産が間に合わない状況である。

委 員 :	五日市ファーマーズセンターは、観光客が、五日市の一番のメインストリートを通ったときに、観光の帰りがけに寄りにくい場所に立地している。都心の人にお客になってもらえれば、市内にお金が落ちるが、帰りに寄りにくいのが残念である。また、電車で来た人に対して、駅の周りにお土産を買う場所がない。駅などに地元の野菜があれば買う人がいると思う。そのように、観光に来た観光客に消費してもらうような場所がないか。また、五日市郷土館を五日市地域交流センター内に移せば、五日市郷土館の跡地を売却でき、固定資産税が入ってくる。また、道の駅の機能を持たせればいいと思う。観光をメインにしている五日市を何とかできないか、五日市の人も積極的に考えて、知恵を出していかないといけないと考える。
委 員 :	五日市会館に向かう道も広がったのは、よかったと思う。旧五日市町役場の建物は、東京電力の高圧線に係る補償を基金にして、持ち出しなしで建物が建ったように記憶している。
委 員 長 :	地域の人たちが立ち上がらないと、活性化は難しいと思う。
委 員 :	武蔵五日市駅前には、向かって左側に西東京バスの駐車場があり、向かって右側に市有地である駐車場がある。市の土地で何とかしないとイケないわけで、今ある西東京バスの土地と入れ替えると駅前がいい道になると思う。
委 員 :	西東京バスの車庫は、駅前の一等地に位置している。バスの車庫にしておくことは、もったいない。
委 員 :	以前、サマーランドの土地に、西東京バスのバス置き場を移す話もあったが、場所の関係で移らなかった。
委 員 :	ぜひ、市のほうで音頭をとって改善していくことで、JR、西東京バスにとっても、ビジネスチャンスとして意義がある。考えればたくさんアイデアが浮かぶと思う。
委 員 :	最近では、JR五日市線の複線化工事のことが話題にならなくなっているが、この短い単線をうまく利用して、古い電車を休日に走らせるなどすることで、比較的都心から近いので多くの電車ファンがくるのではないか。また、それをマスコミが取り上げれば、集客効果がある。また、ルピアで月1回カラオケの大会を開催して、その参加条件として五日市地域交流センターのカラオケボックスで何点以上取った人とするなどして、年間チャンピオンを決めるなどする仕組みを作れば、五日市地域交流センターのカラオケの利用も増えてくる。
委 員 :	中央公民館の利用度は高い。五日市地域交流センターを利用しようとしても、参加者から駐車場が不便であるなども意見が出たり、参加者に五日市に住んでいる人が少ないため秋川地区での開催が好ましいなどの意見があるようである。発想を変えて、秋川地区になくてもいいような施設を五日市交流センターの中に持って行って、五日市地域交流センターの一部の機能を秋川地区に持ってくるなどといった有効活用はどうか。
委 員 長 :	それもひとつの提言である。
委 員 :	五日市にいない施設を持っていくような考えは、五日市の人の感情に

	配慮する必要があると思う。
委員長 :	五日市の発展のためには、貴重な財産であるのに、地元から積極的な提言がなされていない。政治に反映していないのかも知れないが、地域づくりは自分たちの手でしていかないといけないので、土台である地域の人の支えが必要になってくると感じる。
委員 :	五日市地域交流センターで会議室などを貸してもらえることを知らなかった。広報の方法などに問題があるのではないか。
委員 :	まほろばホールは、122席の席数であったと思うが、利用価値は低い。500人くらい入れないと、営業的なイベントは利用する上で厳しいと考える。まほろばホールでは、何かの教室みたいな利用方法も考えられるが、無理してまほろばホールを残す必要はないと思う。なくしてしまうと、五日市に文化的な施設がなくなってしまうとの意見が出るかもしれない。ただ、合併したことで旧五日市町役場の一部をホールにしたのであり、普通の自治体ならばない。
委員 :	五日市地域交流センターは、歴史を刻んだ建物であるが、お客さんと呼ばうとしても施設の場所が悪い。そのことから武蔵五日市駅前の話に発展したのだと思う。五日市の気運はないのかとってしまう。地域も活性化に対する盛り上がりがないのかもしれない。商店街のみんなが活性化に取り組んでいるのか、汗かいているのかと疑問にってしまう。景気が悪いが、切羽詰っていないように思う。また、商業者の息子たちなど商店街に若い人が出て来ない。やはり商店街が中心に動かないと、五日市の活性化は、厳しいと思う。五日市地域交流センターは利用率が低く維持費がかかるのが問題であるが、五日市地区の出張所としての機能は本当に必要であるか疑問である。規模も中途半端な建物であると思う。
委員 :	ジオパークの話も出ているが、これが本格的な話になってくれば、五日市郷土館が中心になって事業展開してくると思う。それには、五日市地域交流センターに五日市郷土館の機能を移すのがいいと思う。今のままでは、五日市地域交流センターに行こうと思う市民や観光客はいない。ジオパークはその活用方法の一つになってくると思う。
委員長 :	今の状況をもうしばらく置いておとくという選択肢もひとつある。また、厳しいときに活用しないのは無駄だから、売って財源の縮小していくことも考えられる。ただ、その二つの案の間にいい案があると思う。第2次行政改革推進プランの中で、22年度以降に検討・実施していくこととなっており、「地域住民や利用者の意識等を十分に把握した上で、五日市地区の活性化の観点で、その活用方法を検討し、施設の有効利用を進めます。」としている。市民も参加して、まちづくりに活用できるような施設のあり方について、市民会議の目玉として、何か仕掛けをすることができるのかと思いい、今回の議題に提示した。
委員 :	五日市出張所の市民総合窓口係が本当に必要とされているのか。総合的に市全体で五日市出張所での窓口の利用率は、何パーセントくらいあるのか。利用件数が少ないが、その反面、空いていて便利との意見もある。そ

	の事務室をなくしてもいいのであれば、別の利用もできる。
委員	： ただ、行政サービスを、秋川地区に集中されると車を利用しないとサービスを受けられないという市民が出てくると思う。小宮地区や戸倉地区の人のことを考えると、近くにあるほうがいいと思う。
委員	： 五日市出張所の市民総合窓口係で、どういう部署の申請や手続きができるのかがわからない。
委員	： 市民課などの戸籍の発行などしてもらえる。私は自宅から秋川の庁舎まで20キロくらいあるので、五日市出張所を利用することもあり、なくなってしまうことには、五日市地区の住民から抵抗があるのではないかと思う。
委員	： るのバスもあるが、本数が少なく、五日市から秋川まで来ることはできるが、ルートの関係で時間がかかる。
委員	： バスもたくさん走っているわけではないので、五日市出張所だけで、五日市地区の行政サービスの水準を確保できているのかが疑問である。
委員	： 行政サービスの一定の水準を確保しないといけないが、それが見えてこない。その辺りのデータを備えて議論しないといけない。
委員長	： それは、行政がちゃんとチェックしないといけない。
委員	： 五日市出張所では、最低限の市民サービスをしていかないといけないと思う。2階・3階の有効活用に問題があるのであれば、秋川地区にある公共施設を2階・3階のスペースに入れることもできると思う。会議室など、最低限備えていないといけないが、そのような取組で有効活用できるのではないか。
委員長	： まず、現在の状況把握を行政側から出してもらい、検討する必要があるということになる。もう一つは、五日市の人たちが自分たちの財産として有効活用することについて結束してもらわないと、しらけた形になり、また合併したことが後々の合併に対する批判になりかねない。地域力を高めるのには集会所は必要であり、まちづくりに繋がる。この問題を市民会議の中で提起して市民に投げかけて、全市民で考えていくということをアピールしていきたい。
委員	： 増戸地区の会議には、近くの五日市ファインプラザを使うことが多いが、会議室の利用率が高くなかなか予約ができないという話を聞く。だからといって、五日市地域交流センターで会議をするのは、遠いので利用しないようである。
委員	： 五日市地域交流センターの会議室などの利用した件数が載っているが、会議室が多いから稼働率が悪いのではないか。
委員	： 会議室や展示室などの機能を見直して、開いたスペースに五日市郷土館を移すことについて、地域から反対はされないと思う。そのことで、地元の人も、五日市地域交流センターを覗きに来ると思う。ジオパークが本格的に始まれば、インパクトがあり集客もできると考える。お金もかかるので分からないが、図書館や公民館も入れるなどいろいろな可能性が考えられる。五日市地域交流センターの有効利用をなんらかの形でまとめていき

	たい。取りまとめる時間がないので、この議題が出たのだと理解している。市として取り組んでいくというものを出してほしい。
委員 :	考えることはいい事である。
委員長 :	郷土づくりとまちづくりを、協働の作業の一つの象徴として夢を抱いているが、行政も議会を含めて真剣に考えてもらわないといけない。今まで放置されていたのは、行政の怠慢であり、また、市民の怠慢でもある。行政の内部でプロジェクトを立ち上げるかどうかも検討してほしい。場合によっては、コンサルティングを入れたり、市民からの意見を公募し賞金出すなど、良い案を集めることが必要である。今までの市民会議からの提言は、動いている事業などの是正であったが、五日市地域交流センターの提言は、新たに新しいものを描くことができる。真剣に目玉として検討してほしい。次回までにわれわれも考える。五日市の住民や関係者、そして五日市のまちが発展していき、旧秋川市と旧五日市町が共存共栄でないといけない。五日市地域には、たくさんの地域資源がある。五日市地域交流センターについて課題にあげたので、案を持ち寄ってほしい。次回の日程については、委員長、副委員長で話し合って連絡する。最終的な市民会議の出口として、次回の会議までに、これだけは24年度の予算に入れてほしいということや実現してほしい要望を出してほしい。

午後4時35分終了